

第2章 教育事業の実際

モデル的プログラム開発事業

「未来に残そう！九州エコサミット in 阿蘇」

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家
- [後援] 九州各県・政令指定都市教育委員会，NPO法人九州流域連携会議
- [期間] 平成23年10月8日(土)～10月10日(月) 2泊3日
- [実施場所] 国立阿蘇青少年交流の家・杵島岳
- [参加者] 57名（高校生41名・引率教員11名・大学生3名・一般2名）
- 内訳：遠賀高校（福岡） 国見高校（長崎）
唐津青翔高校（佐賀） 唐津南高校（佐賀）
宇佐産業科学高校（大分） 宮崎大宮高校（宮崎）
鹿屋農業高校（鹿児島） 八代農業高校泉分校（熊本）
阿蘇清峰高校（熊本） 阿蘇高校・阿蘇中央高校（熊本）
長崎県高校生・大学生環境会議実行委員会（長崎）
NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク（宮崎）
- [講師] NPO法人全国水環境交流会 理事 岡 裕二 氏
阿蘇火山博物館 館長 池辺伸一郎 氏

1 趣 旨

九州地区で環境教育や環境保全活動に取り組んでいる高校生や市民団体が集い、実践発表や意見交換、そして阿蘇の自然の中でのフィールドワークをととして、環境保全活動に関するネットワークを構築し、更なる環境教育の推進を図る。

2 目 標

- (1) 実践発表会やフィールドワーク等をととして、お互いに学び合いながら知識を広げ深め、更に環境教育に対する関心を高める。
- (2) 九州地区の高校生・市民団体等による環境保全活動に関するネットワーク構築のきっかけをつくる。

3 事業展開

(1) 研修プログラム

								14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
10月8日(土)								受付	開会式	実践発表会		オリエンテーション	夕食・入浴		阿蘇ンオハーク 関係講話 意見交換会	就寝準備等	消灯
10月9日(日)	7:00 起床・洗面等	8:00 朝の集い	朝食	準備・掃除	フィールドワーク① 杵島岳登山等	昼食	13:00	14:00 フィールドワーク② ネイチャーゲーム体験	15:00	16:00 フィールドワーク③ ネイチャーゲーム創作	17:00	18:00 夕べの集い	19:00 夕食・入浴	20:00	21:00 フィールドワーク のまとめ	22:00 就寝準備等	23:00 消灯
10月10日(月)	7:00 起床・洗面等	8:00 朝の集い	朝食	準備・部屋点検	フィールドワーク のまとめの発表	12:00	13:00										

(2) 目標達成のための工夫

① お互いに学び合う場の設定

環境保全活動に関するネットワークの構築を図るため、実践発表会や意見交換会等、お互いの学び合いの場を設定した。各学校・団体とも、役割分担をしたり、ポスターやプロジェクターを使ったりして、発表の仕方を工夫していた。



(各高等学校の活動報告)

県名	佐賀県	学校名	佐賀県立唐津青翔高等学校
タイトル	緑藻アオサ類の成長と海の世界Ⅱ・全国サミット		
県名	宮崎県	学校名	宮崎県立宮崎大宮高等学校
タイトル	花促進委員会・整美委員会活動報告		
県名	長崎県	学校名	長崎県立国見高等学校 環境づくり事務局
タイトル	生徒と教職員で取り組む環境対策活動と環境づくり事務局		
県名	大分県	学校名	大分県立宇佐産業科学高等学校
タイトル	アイガモ農法による米作りと安心米の加工食品作り体験		
県名	熊本県	学校名	熊本県立八代農業高等学校 泉分校 プロジェクト研究班
タイトル	巻枯らし間伐で豊かな森を取り戻そう！		
県名	佐賀県	学校名	佐賀県立唐津南高等学校 松露プロジェクトチーム
タイトル	地域と共に郷土の誇りを守り、そして次世代に伝える ～唐津南高校から全国へ伝える『虹の松原』松露プロジェクト～		
県名	鹿児島県	学校名	鹿児島県立鹿屋農業高等学校
タイトル	資源循環型社会の形成と農業発展をめざして取組について		
県名	福岡県	学校名	福岡県立遠賀高等学校
タイトル	遠賀高校自然環境コースで行っている課題研究		
県名	長崎県	団体名	長崎県高校生・大学生環境会議実行委員会
タイトル	高校生と大学生が協同で行う環境活動に関する研究 ～長崎県高校生・大学生環境会議の開催～		
県名	宮崎県	団体名	NPO法人 五ヶ瀬川流域ネットワーク
タイトル	五ヶ瀬川流域ネットワークの活動について		

② 専門家による指導

本事業の充実と環境活動の取組に対する更なる意欲付けを行うため、講師として、環境教育の専門家に依頼した。そのため、レクチャーを受けながらの登山や自然を使った遊びの創作など、共に、自然を相手に考えながら、学びながら行う体験プログラムが実施でき、参加者は意欲的に取り組んでいた。



③ 地域の特色を生かしたプログラム

阿蘇の大自然を生かした登山活動や施設内の自然を活用してのネイチャーゲームの体験活動プログラム、また阿蘇ジオパークへの取組についての学習など、地域の特色を生かしたプログラムを実施した。

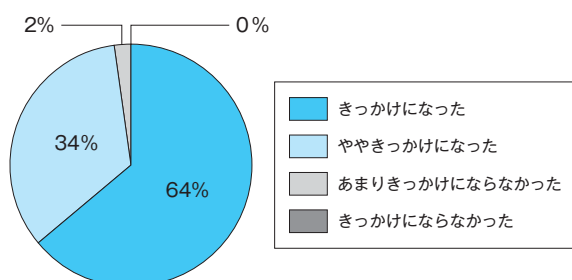
参加者は、阿蘇の自然環境をとおして、地元での環境活動への取組について、また世界規模の環境保全について考えることができ、今後の活動への意識向上につながった。



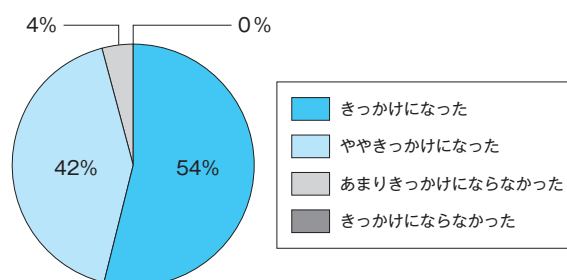
4 結果

アンケートの結果は次のとおりである。(参加者による自己評価)

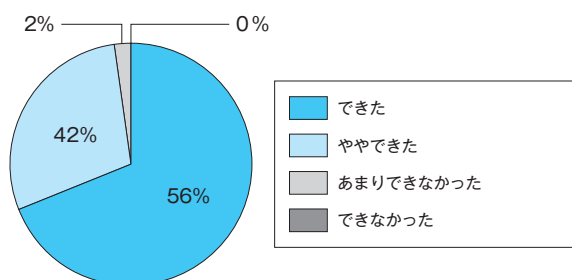
自分たちの活動を見つめ直すきっかけになったか。



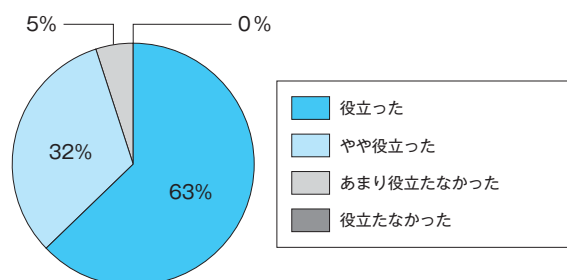
新たな取組へのきっかけになったか。



環境活動に関するネットワークづくりができたか。



フィールドワークは今後の環境活動への取組に役立つ内容だったか。



5 成果と課題

(1) 成 果

- ① 今回は、高校生のみではなく、NPO団体等にも参加を呼びかけた。それにより、高校生にとっては、卒業後の継続的な環境活動への意欲付けとなり、また環境問題は高校生だけでなく様々な人たちが取り組まなければならない大きな課題であることを再認識できたと考える。また、大学生・社会人にとっても、高等学校での現在の取組や新しい発想等の情報収集ができたようである。
- ② 実践発表では、一校ごとに発表を行ったので、全団体の実践内容をじっくり聴き、しっかり理解することができた。
- ③ 今回は、初めて参加した学校や団体が多かったので、新しいネットワークづくりができた。
- ④ 自然のおもしろさや大切さ、素晴らしさを人に伝える手段を学ぶため、ネイチャーゲームを創作し、それを実践するプログラムを設定した。グループごとに行うことによって、話し合い考えながら、楽しい新ゲームをつくり上げていた。



創作ネイチャーゲーム発表会

(2) 課 題

- ① 今回は、閉会式の際、引率の先生方から、参加生徒へ自然物で製作した賞状が贈られた。事業中の生徒の活動に対する賞賛、励ましを形に表すことができ、とてもよい試みだった。次回からも、先生方のかかわり方もプログラムのなかに組み込むことによって、スムーズに、かつ更に充実した事業になると考える。
- ② 九州管内の環境教育に取り組む学校や団体等ができるだけ多く参加し、学習や情報交換ができるよう、早めの開催期日の決定や広報を行う必要がある。それと同時に、更なる事業の充実を図るために、事例発表会等の時間設定や発表方法の工夫をする必要がある。



引率の先生方の賞状制作